

(様式1・小学校用①)

令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立氷川小学校

(令和8年1月26日作成)

1 学校教育目標 「学びあい 助けあって 自分を高める」 ◎目指す学校像 「潤いと響き 子どもたち一人ひとりを大切にするあたたかな学校」 ○子どもが伸びる学校 ○子どもが生き生きと活動する学校 ○保護者・地域と共に歩む学校 ○教育環境を大切にする学校 ◎氷川小学校の目指す児童像 ○ひ・ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か・輝く瞳 (徳) 助けあう子 ○わ・わかる喜び (知) 学びあう子	
2 重点目標・努力目標 ○児童の「ウェルビーイング」と「学力」の向上 ○教職員の「ウェルビーイング」の向上	3 前年度の成果と課題 成果 ○校内研修を積極的に実施し、教職員の授業力が向上した。 ○学校ホームページの毎日更新、学校だより、保護者連絡メール「すぐーる」により情報発信を強化し、保護者・地域との連携が深まった。 課題 ●教育活動の充実を図るため、日課表や月予定の更なる見直しにより授業時数を計画的に確保する。 ●外部人材の効果的な活用を一層推進する。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学 校 運 営 に 関 す る も	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○校長室だよりやデジタル校務を有効に活用し、学校経営方針や組織経営計画等について共通理解を図り、教職員が一丸となって教育活動の充実に取り組んだ。 ○様々な業務の効率化が図られた。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○子どもたちの「ウェルビーイング」向上のため、「居心地の良いクラスづくり」「楽しくて分かる授業の実践」を行った。 ○「学力向上アクションプラン」の実践、学力向上のための「個人研究」に取り組んだ。 ●今年度の研究成果を次年度に継続・体系化する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○台風や雷雨の際は、最悪を想定し臨機応変に対応した。 ○避難訓練においては、地震・火事・不審者対応、休み時間対応等を行い、非常時の避難方法について共通理解を深めた。 ●安全点検のさらなる工夫を進める。

の	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○安全に関わる施設・設備の修繕は、早急に対応した。 ○情報管理・施設設備管理について平常時から危機意識をもって取り組むことができた。 ●老朽化設備の計画的更新を関係機関と連携して進める。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日、学校ホームページに教育活動を更新した。 ●保護者や地域の方々との連携を更に強化し、活動の活性化を図る。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区での合同研修会や独自の乗り入れ授業の実施、幼保との交流など積極的に連携を行った。 ●教育課程・生徒指導面での連携を引き続き推進する。

(様式1・小学校用②)

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に教育活動を行い、授業時数を確保した。 ○「子どもたち一人ひとりを大切にすあたたかな学校づくりの実現」に向けた「共通理解・共通行動」を徹底した。 ●家庭・地域社会との更なる連携を図る。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を積極的に行い、授業実践力の向上により、児童の「自己肯定感・自己有用感・他者理解」の向上につなげた。 ●さらなる授業実践の質の向上を図る。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開で全学級が道徳の授業を実践した。 ○道徳ノートを持ち帰ることにより保護者との共通理解を図った。 ○道徳コーナーを新設した。 ●家庭での具体的取組を発信する。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全教員が、本校の外国語授業の共通理解を図り、指導方法を学んだ。 ●外国語・外国語活動の更なる授業力向上を図る。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全学年で統一した学級活動(1)を継続することができた。 ●学校行事と児童会活動の充実と精選を進める。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○地域学習での地域の人材や場所的・物的資源を活用することができた。 ○「ふるさと草加コーナー」を新設した。 ●地域学習の指導計画や指導内容を確立する。

⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職を中心に組織的な対応をした。 ○「ひかわっ子・共有プラン」「よい子のきまり」等を文書で保護者に公開した。 ●教育相談や児童理解を充実させ、いじめや問題行動の未然防止に努める。
⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動や総合的な学習の時間を用いて、取り組むことができた。 ●地域との連携を強化し、啓発的な経験を充実させる必要がある。
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職や特別支援教育コーディネーターと連携し、校内の支援体制を整えた。 ●特別支援教育の視点を取り入れた研修を充実させる。
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「読書の日」「読書表彰」「読み聞かせ」に取り組み、児童や保護者の啓蒙・啓発を行った。 ○読み聞かせボランティアによる読書タイムでの読み聞かせを実施した。
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者とSNSに係る生徒指導上の課題を共通理解し、家庭での声掛けを依頼した。 ●氷川小「よい子のきまり」を確認し、SNSの正しい使い方について課題があると感じた。 ●発達段階に応じた情報モラル教育を進める。
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○児童理解に係る研修、人権感覚育成研修を行い、全教職員で共通理解を図ることができた。 ●人権感覚プログラムをさらに推進していく。

(様式1・小学校用③)

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	①児童の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・読書活動の推進 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学力向上アクションプラン」の実践やひかわっ子プリント・AIドリルを活用し、学力の向上に取り組んだ。 ○ICTの活用により、協働的な学び等で効果的に学びを深めることができた。 ●一人ひとりの個性を生かした学習活動の充実を図る。
	②教職員の「働き方改革」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務削減 ・校務の精選 ・環境整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○デジタル校務用パソコン、タブレット端末を活用し、定時退勤を促進した。 ○連絡システム「すぐーる」を活用し、学校からの配布物や連絡のペーパーレス化を進めた。 ●定時退勤デー・ふれあいデーの徹底、勤務時間外在校時間の適正化を継続する。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 学校評価項目「お子様は、学校生活に満足していますか」では、保護者の96.6%が肯定的に回答した。また、「お子様は、自分の学級を楽しいと感じていますか」で、保護者の97.8%が、「そう思う、ややそう思う」と回答しており、児童が日々の学校生活を前向きに受けとめていることが表れている。
- 学校ホームページの毎日更新、学校だよりの計画的な発行、連絡メール「すぐーる」を活用したこまめな情報発信を実施したことにより、保護者との情報共有が一層円滑になった。学校の取組や児童の様子が適時伝わり、保護者の学校理解の促進につながった。
- 年度3回実施した業務改善提案制度では、教職員から意見が寄せられ、職員会議の時間短縮・削減、行事の精選、成績処理の時間確保など具体的な改善策を実施することができた。これらの取組により、「働き方改革」が着実に前進した。

6 次年度の改善策

- 児童の「ウェルビーイング」と「学力」の向上の取組を継続・進化させる。
- 家庭学習の取組や鉛筆の持ち方、学習用具の準備等、学習規律の育成について、家庭の協力を得ながら取組を進める。
- 開校50周年を迎えるにあたり、地域人材の活用や地域の方との交流など、各教科等での効果的な外部人材の活用を推進する。
- 児童のあいさつについては、学校・家庭・地域が連携し、「自ら進んで気持ちよくあいさつする子」を育てるための取組を充実させる。日常の学校生活や行事を通して、あいさつの意味や大切さへの理解を高める指導を継続的に行う。